

営農ウィークリーNEWS

長岡京花菜部会圃場審査会で松井さんがトップに



圃場での審査風景（1位の松井氏圃場）

令和5年2月14日、JA京都中央長岡京花菜部会の圃場審査会が行われ、長岡京市各地区から代表6圃場が出品されました。審査には、部会役員のほか京都乙訓農業改良普及センター、長岡京市役所、京果、JA担当者などが当たりました。12月に乾き、1~2月に降雪・低温があり、栽培に苦勞の多い条件の中でしたが各圃場とも花菜の生育は順調でした。生育状況、圃場の管理状況、病虫害の発生状況などに基づく審査の結果、1位に松井健悟氏、2位が長尾光章氏、3位が藤井俊一氏となりました。Withコロナで徐々に需要の回復が期待される中、市場評価の高いJA京都中央の花菜は、5月まで出荷が続きます。



収穫を待つ花蕾



目合わせ圃場で審査の基準を確認する審査員

—TAC information—

ヒノヒカリ種もみ検査実施



2月17日、JAの農産物検査員2名によって、2022年産水稻種もみ（品種；ヒノヒカリ）、6.6tの検査が行われました。この種もみ採種事業は、水稻種子の安定供給と確保を目指して、向島地域の水稻部員が中心となって続けてきているものです。2022年産は、事前に行われた京都府による生産物審査（発芽試験）ではすべて合格しています。



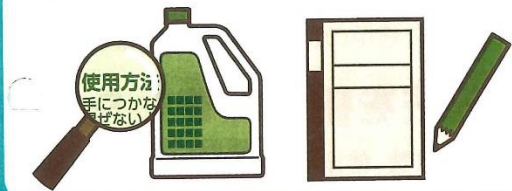
暖かくなってくると、農薬を使う機会が多くなってきます。
3つの基本を守って、農作物の栽培を行いましょう。

安全・安心な農産物づくりのため

守ろう! 3つの基本

1

農薬の適正使用と履歴 記帳の徹底を



- ✓ 最新の使用方法を確認して使用
- ✓ 使用日、場所、作物名、農薬名、使用量、希釈倍数をしっかり記帳

2

安全は日ごろの管理から



- ✓ マスク・手袋・メガネ・防除衣の着用
- ✓ 使用後は散布器具の洗浄を徹底
- ✓ 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管
- ✓ 農薬は誤用・誤飲・誤食などを避けるため他の容器に移しかえない

3

周辺環境への配慮も 忘れずに



- ✓ 周辺作物への農薬飛散防止（風向き・散布圧に注意）
- ✓ 住宅地周辺での農薬飛散防止・散布の周知
- ✓ 田んぼで農薬使用後7日間は落水・かけ流しをしない
- ✓ 耕種的防除で農薬使用を減らす工夫

* 農薬の使い方や適用作物については、最寄りのJAまたは農業改良普及センターにご相談ください

京都府農薬飛散防止対策協議会

（JA京都中央会・JA全農京都・京都府）